

A 編 問 題 2－1 商品の決算整理Ⅰ

🕒 5 分 ➡ 解答 P. 1

次の資料に基づいて、決算整理仕訳および勘定記入を行いなさい。なお、売上原価は仕入勘定で計算しなさい。(決算年 1 回 3 月 31 日)

- (イ) 期首商品棚卸高 (繰越商品勘定残高) ¥ 350,000
 - (ロ) 当期商品仕入高 (仕入勘定残高) ¥2,500,000
 - (ハ) 期末商品棚卸高 (商品有高帳残高欄)
- 帳簿棚卸数量 1,500個 原価 @¥210

繰 越 商 品		仕 入	
4/ 1 前期繰越	350,000	2,500,000	

A 編 問 題 2－2 商品の決算整理Ⅱ

🕒 5 分 ➡ 解答 P. 1

次の資料に基づいて、決算整理仕訳および勘定記入を行いなさい。なお、売上原価は売上原価勘定で計算しなさい。(決算年 1 回 3 月 31 日)

- (イ) 期首商品棚卸高 (繰越商品勘定残高) ¥ 350,000
 - (ロ) 当期商品仕入高 (仕入勘定残高) ¥2,500,000
 - (ハ) 期末商品棚卸高 (商品有高帳残高欄)
- 帳簿棚卸数量 1,500個 原価 @¥210

繰 越 商 品		売 上 原 価	
4/ 1 前期繰越	350,000		

仕 入	
2,500,000	

A 編 問 題 2－3 商品の決算整理Ⅲ

🕒 10分 ➡ 解答 P. 2

次の資料に基づいて、決算整理仕訳を行い、損益計算書および貸借対照表を作成しなさい。

(決算年 1 回 3 月31日)

(1) 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表

	平成×2年 3 月31日	(単位：円)
繰越商品	350,000	売 上 3,500,000
仕 入	2,500,000	

(2) 商品の期末棚卸は次のとおりであり、低価法によって評価する。なお、売上原価は仕入勘定で計算し、棚卸減耗費は販売費及び一般管理費として処理し、商品評価損は営業外費用として処理する。

帳簿棚卸数量 1,500個 原価@¥210

実地棚卸数量 1,300個 時価@¥180

損 益 計 算 書

〇〇株式会社	自平成×1年 4 月 1 日至平成×2年 3 月31日	(単位：円)
I 売 上 高		3,500,000
II 売 上 原 価		
1. 期 首 商 品 棚 卸 高	()	
2. 当 期 商 品 仕 入 高	()	
合 計	()	
3. 期 末 商 品 棚 卸 高	()	()
売 上 総 利 益		()
III 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		
1. 棚 卸 減 耗 費	()	
⋮		
V 営 業 外 費 用		
1. 商 品 評 価 損	()	

貸 借 対 照 表

〇〇株式会社	平成×2年 3 月31日現在	(単位：円)
I 流 動 資 産		
商 品	()	

A 編 問 題 2－4 商品の決算整理Ⅳ

🕒 10分 ➡ 解答 P. 3

次の資料に基づいて、決算整理仕訳を行い、損益計算書および貸借対照表を作成しなさい。

(決算年 1 回 3 月31日)

(1) 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表

平成×2年 3 月31日 (単位：円)			
繰越商品	350,000	売 上	3,500,000
仕 入	2,500,000		

(2) 商品の期末棚卸は次のとおりであり、低価法によって評価する。なお、売上原価は仕入勘定で計算し、棚卸減耗費および商品評価損は売上原価に算入すること。

帳簿棚卸数量 1,500個 原価@¥210

実地棚卸数量 1,300個 時価@¥180

損 益 計 算 書

〇〇株式会社 自平成×1年 4 月 1 日至平成×2年 3 月31日 (単位：円)

I 売 上 高		3,500,000
II 売 上 原 価		
1. 期首商品棚卸高	()	
2. 当期商品仕入高	()	
合 計	()	
3. 期末商品棚卸高	()	
差 引	()	
4. 棚 卸 減 耗 費	()	
5. 商 品 評 価 損	()	()
売 上 総 利 益		()

貸 借 対 照 表

〇〇株式会社 平成×2年 3 月31日現在 (単位：円)

I 流 動 資 産	
商 品	()

A 編 問 題 2－5 商品の決算整理Ⅴ

🕒 10分 ➡ 解答 P. 4

次の資料に基づいて、決算整理仕訳を行い、損益計算書および貸借対照表を作成しなさい。

(決算年 1 回 3 月 31 日)

(1) 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表

平成×2年 3 月 31 日 (単位：円)			
繰越商品	350,000	売 上	3,500,000
仕 入	2,500,000		

(2) 商品の期末棚卸は次のとおりであり、原価法によって評価する。なお、売上原価は仕入勘定で計算し、棚卸減耗費は販売費及び一般管理費として処理する。

帳簿棚卸数量 1,500個 原価@¥210

実地棚卸数量 1,300個 時価@¥180

損 益 計 算 書

〇〇株式会社 自平成×1年 4 月 1 日至平成×2年 3 月 31 日 (単位：円)

I 売 上 高 3,500,000

II 売 上 原 価

1. 期首商品棚卸高 ()

2. 当期商品仕入高 ()

合 計 ()

3. 期末商品棚卸高 () ()

売 上 総 利 益 ()

III 販売費及び一般管理費

1. 棚 卸 減 耗 費 ()

貸 借 対 照 表

〇〇株式会社 平成×2年 3 月 31 日現在 (単位：円)

I 流 動 資 産

商 品 ()

A 編 問 題 2－6 精算表

 20分  解答 P. 5

次の期末修正事項により、精算表を完成しなさい。なお、会計期間は1年とする。

- (1) 期末商品は次のとおりであり、低価法を適用している。なお、棚卸減耗費と商品評価損は、いずれも売上原価に算入しないこととし、売上原価の計算は「仕入」の行で行うこと。

帳簿棚卸数量 500個 原価 @¥83

実地棚卸数量 480個 時価 @¥80

- (2) 期末売掛金残高に対し、3%の貸倒れを見積る。なお、貸倒引当金は期末残高に補充する方法による。
- (3) 備品について残存価額は取得原価の10%、耐用年数6年として、定額法により減価償却を行う。
- (4) 保険料は1年分で、決算日までに4ヵ月経過している。
- (5) 受取手数料¥12,000が未収である。
- (6) 売買目的有価証券を¥97,500に評価替えする。
- (7) 消耗品の期末未使用高は¥1,350である。

精 算 表

勘 定 科 目	試 算 表		修 正 記 入		損益計算書		貸借対照表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
現 金	98,000							
売 掛 金	234,000							
売買目的有価証券	100,000							
繰 越 商 品	38,000							
備 品	45,000							
買 掛 金		97,600						
貸倒引当金		1,500						
減価償却累計額		13,500						
資 本 金		300,000						
売 上		503,400						
受取手数料		36,000						
仕 入	293,600							
給 料	120,000							
保 険 料	18,000							
消 耗 品 費	5,400							
	952,000	952,000						
貸倒引当金繰入								
減 価 償 却 費								
()								
()								
() 保 険 料								
() 手 数 料								
有価証券 ()								
消 耗 品								
当期純 ()								

 15分 ➡ 解答 P. 7

小倉商事株式会社の平成×年7月の商品の受入・払出記録は以下のとおりである。

7月1日	前月繰越	400個	@ ¥200
6日	仕入	600個	@ ¥220
11日	売上	800個	@ ¥280
15日	仕入	400個	@ ¥210
19日	売上	500個	@ ¥282
24日	仕入	600個	@ ¥215
29日	売上	400個	@ ¥290

- (1) そのつど後入先出法を適用した場合の商品有高帳の記入を行いなさい。また、売上高、売上原価および売上総利益も求めなさい。
- (2) 月別後入先出法および総平均法を適用した場合の売上原価、月末商品棚卸高を求めなさい。

(1) 商品有高帳

そのつど後入先出法

[illegible]

売 上 高	売 上 原 価	売 上 総 利 益
¥	¥	¥

(2)

	売 上 原 価	月末商品棚卸高
月別後入先出法	¥	¥
総 平 均 法	¥	¥